

約束の集合時刻への遅刻を減らす要因の分析

研究背景

一口に遅刻と言っても、様々な状況での遅刻が考えられるため、本研究では「他者との間で合意された刻限に遅れて到着すること」と定義する。遅刻の原因は、集団規範・個々人の規範意識をはじめ複数の要因が先行研究にて指摘されているが、遅刻を減らす有効な方策の心理学的研究は我が国ではほとんどなされていない。よって本研究は、遅刻が集団規範の影響をあまり受けず個々人の規範意識の影響を強く受けると考えられる、大学生における無償の課外活動への遅刻を減らす要因について調べる。

方法

大阪教育大学夜間部5回生の卒論実験への参加を同大学生に依頼し、実験室への到着時刻を記録した。その際、21人ずつ以下の3群に無作為に割り振った。

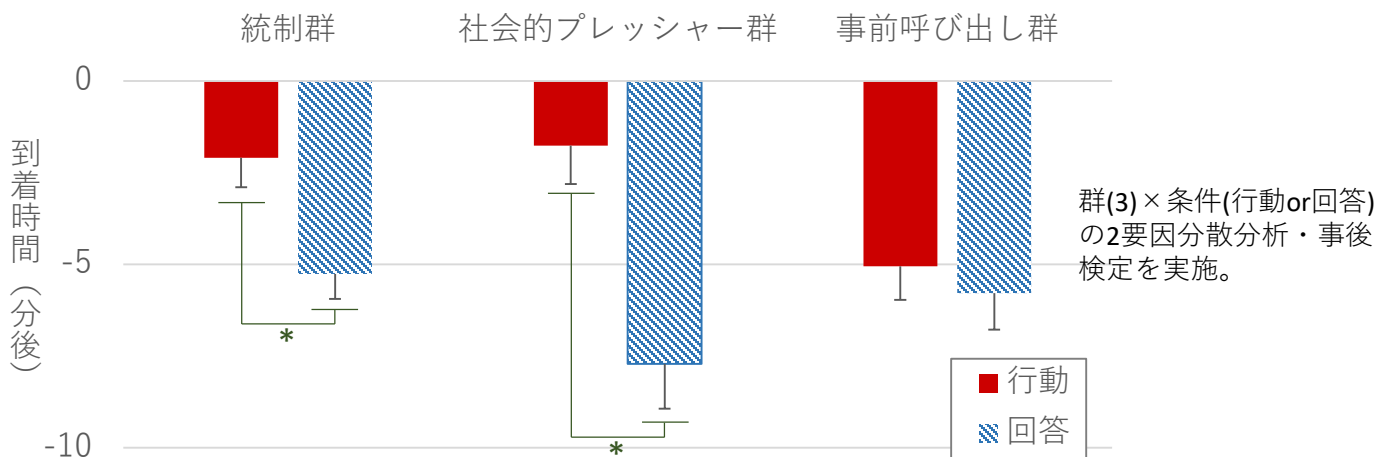
統制群：特に何も操作与えず

社会的プレッシャー群：実験日前日に送信したアラートに「一緒に実験にご参加いただく方のご迷惑となってしまうため、時間通りに来ていただくよう、よろしくお願いいたします」という文を記載

事前呼び出し群：実験日前日に送信したアラートに「〇:〇（開始5分前の時刻）には来ていただきますよう、よろしくお願いいたします」という文を記載

また、全員に対し質問紙調査を実施した。質問では、友だちと12時に待ち合わせをしているという架空の場面で、何時何分から何時何分の間に待ち合わせ場所に到着しようとするかを問うた。

各実験参加者が、実際のところ実験室に集合時刻の何分後に到着したか（行動）、架空の場面で集合時刻の何分前に到着すると回答したか（回答）を群間で比較した。



結果・考察

行動値は、事前呼び出し群の方が残る2群よりも早い傾向が見られた。回答値に群間で差は見られなかった。また、統制群、社会的プレッシャー群では、架空場面での回答と実際の行動間にずれが見られたのに対し、事前呼び出し群では見られなかった。友人との約束など、個々人の規範意識の裁量の大きい場面では、「他の人の迷惑になる」という社会的プレッシャーは実際の遅刻には全く効果が見られず、5分前に集合するよう指示することが遅刻を減らす上で有用であること、本人が意図している時間には実際には往々にして到着しないことが示唆された。

*本発表は、詳細を大阪教育大学紀要に投稿予定ですので、詳細な手続き等はそちらをご覧ください。

結論：約束の集合時刻への遅刻を減らすには、約束の集合時刻自体を早めに設定すべし。